

動 検 時 報

Vol.58-4 2025.08



動物検疫所公式キャラクター「クンくん」プロフィール公開



お誕生日	9月9日（くんくん）
身長・体重	ないしょ！
お仕事	～動物検疫の伝道師～ 動物検疫の大切さを伝える
特技	お肉製品やフルーツをにおいで見つける 褒められると能力アップする
性格	陽気で明るい♪ 家畜防疫官のように、責任感・正義感が強い 検疫探知犬のように、食いしん坊

○ What's New !

クンくんは、動物検疫を広く知ってもらうため、動植物検疫探知犬のイメージキャラクターとして平成18年に誕生しました。現在では動物検疫を広くアピールするための広報活動に欠かせない存在として、たくさんのイベントに登場しています！

これからもクンくんの応援、そして動物検疫へのご協力をよろしくお願いします！

◆ ◆ ◆ ◆ ◆ 動検時報 第 58-4 号 目次 ◆ ◆ ◆ ◆ ◆

◎ トピックス

- ・タイ家畜衛生当局による動物検疫所本所の視察（統括検疫管理官）…………… 3

◎ 動物検疫関連情報

- ・消費・安全局長賞を受賞しました！（羽田空港支所）…………… 3
- ・オール動検の広報戦略～令和 6 年度活動報告～（企画管理部企画調整課）…………… 4
- ・成田支所における外国食材店を中心とした外国人コミュニティへの広報
（成田支所旅具検疫第 1 課）…………… 4
- ・大阪・関西万博 大阪ヘルスケアパビリオンのイベントに参加しました（関西空港支所）…………… 6
- ・東京都芝浦食肉衛生検査所見学（羽田空港支所）…………… 7
- ・新たに配備された移動式レンダリング装置について（企画管理部危機管理課）…………… 7
- ・大型防疫資材の貸出事例と新たな装置の配備（野跡検疫場）（中部空港支所名古屋出張所）…………… 8
- ・八戸港における輸出入畜産物のリモート検査の実施について
（北海道・東北支所函館空港出張所）…………… 9

◎ 所内情報

- ・令和 7 年度動物検疫所業績発表会の概要（精密検査部病理・理化学検査課）…………… 10
- ・新たにデビューした動植物検疫探知犬の紹介（検疫部管理指導課）…………… 10
- ・ジャグ号の引退と長崎の毎日～働く犬から家族へ、元検疫探知犬の新しい日々～
（門司支所長崎空港出張所 小谷 啓）…………… 12

◎ 畜産物・動物の輸出入検疫数量実績（令和 7 年 5 月、6 月）（企画管理部調査課）…………… 13

◎ 動検通信（門司支所）…………… 16

◎トピックス

・タイ家畜衛生当局による動物検疫所本所の視察

(統括検疫管理官)

令和7年6月11日、タイ家畜衛生当局(Department of Livestock Development 以下「DLD」という。)の幹部、在京タイ大使館職員等8名による、動物検疫所横浜本所の視察が行われました。

日本とタイは、600年にわたる交流の歴史を持ち、伝統的に友好関係を築いてきました。タイは日本にとって畜産物に関する重要な貿易相手国であり、海外から日本へ輸入される家きん肉やその加工品のうち、4割以上がタイからの製品となっています。

今般、DLDは家畜衛生に関する課題について、農林水産本省をはじめとした関係機関と意見交換を行うために訪日することとなり、今回の動物検疫所の視察はその行程の中で行われたものです。

当日は、動物検疫所の業務概要説明を行った後、生きた家畜の係留検査を行う施設、精密検査室、動植物検疫探知犬の訓練施設、国内防疫支援に使用する移動式レンダリング装置及び防疫資材庫(ワクチン、防護服、医療用廃棄物容器等を保管する施設)を視察いただきました。DLDの視察者からは、家畜の輸入検査に関する具体的な手続や動植物検疫探知犬に関すること、国内で重大な疾病が発生した際の防疫対応等、多くの質問をいただき、日本の動物検疫制度に高い関心が寄せられていることを感じました。

【動物検疫所本所本館前にて】



◎動物検疫関連情報

・消費・安全局長賞を受賞しました！

(羽田空港支所)

令和7年6月1日、消費・安全局長から、当支所が「肉製品の持込み違反常習者への対応に従事し、逮捕に貢献した」ことについて優良職員として表彰されました。



当該表彰は、令和5年1月からの約1年間、幾度となくミャンマー連邦共和国から違法に肉製品を持ち込もうとしたミャンマー人の逮捕に向けて、根気よく荷物の全量開被検査を実施して肉製品を発見したこと、そして何より警視庁及び東京空港警察署と強固な協力体制を構築し連携して対応したことが評価されたものです。

カート5～6台分の布製バッグに押し込められた多数の包装物を一つ一つ開封して全ての内容物を確認する検査には最低でも3時間を要しました。担当した家畜防疫官の努力はもちろん、幾度となく臨場していただき、長期間に及ぶ地道な捜査と的確なアドバイスで逮捕に繋げてくださった警視庁生活環境課の皆様、警視庁東京空港警察署刑事生活安全組織犯罪対策課の皆様にご心から感謝を申し上げます。

また、直接の表彰対象にはならなかったものの、家畜防疫官の活動を縁の下の力持ちとして常に支えてくれた庶務課のメンバーに、改めて感謝の気持ちを伝えました。

水際検疫の厳格対応はこれからも続きますが、職員のチームワークはもちろん関係者の皆様との強固な協力体制を堅持しながら、日本の畜産振興のために努力し続けていきたいと思っています。

・オール動検の広報戦略～令和6年度活動報告～

(企画管理部企画調整課)

海外から日本に入国する方々に、動物検疫制度への御理解・御協力をいただくため、動物検疫所ではポスター、パンフレット、動画、SNS等様々なコンテンツを活用しています。これらのコンテンツは、イラストや語学が得意な一部の職員が作成してきましたが、令和4年度からは、コンテンツ制作が得意な職員を各支所から募り、本所からの依頼に基づいて制作を行う広報チームを結成しました。しかし、コンテンツ制作を行うのみでは、個々のチーム員の各支所での経験や企画力が生かされない等の課題がありました。

そこで、令和6年度からは、総勢13名のチームメンバー自らが業務経験を基に広報に関する課題を出し、その解決に向けた取組を企画立案して実行することとしました。メンバーからの提案を踏まえて、令和6年度は、取り組むテーマを「ポスター」「クンくん」「動画」の3テーマとし、各班に分かれて企画・検討を行いました。

ポスター班は、行動経済学に基づく“ナッジ理論[※]”を改めて整理したうえで、動物検疫所で現在使用している複数のポスターを分析し、良い点、改善できそうな点、効果的な掲示場所について洗い出しを行いました。

※行動科学に基づき、小さなきっかけで人の意思決定に影響を与え、行動の強制をせずに行動変容を促す戦略・手法。

クンくん班は、動物検疫所の公式キャラクター「クンくん」について、これまでの着ぐるみ等を活用した広報活動を情報収集・分析し、クンくんのキャラクター設定案をとりまとめました。

動画班は、動物検疫所への問合せで特に多い、犬猫の輸入手続に着目し、輸入手続の流れが3分で分かるという動画を作成しました。

1年間のチームの取組により、メンバーのコンテンツ制作に関する得意分野を生かした作業だけでなく、自ら企画立案し実現に向けて活動することで、メンバー一人一人のモチベーションを上げるとともに、支所単位ではできなかった意見交換やコンテンツ制作に結びつけることができ

ました。横浜本所としても、現場が必要と考えているアプローチを具体化しやすくなり、より効率的な広報活動につなげることができたと手応えを感じています。また、当チームはコンテンツ作成のみを目的とする必要はなく、具体的な広報手法を検討する場としても重要であり、継続することが大切だと考えています。一方で、メンバーからは、シフト勤務による各班内のコミュニケーションの取りにくさや、取組の進捗管理が難しいといった課題も出され、まだまだ改善の余地がある活動であることがわかりました。

今後はそれらの課題を改善しつつ、引き続き適切な運用方法を検討しながら、さらなる効果的・効率的な広報に向けて活動を継続していきます。

(右)既存ポスターを分析
(右下)手続動画
(下)クンくん紹介(SNS)



・成田支所における外国食材店を中心とした外国人コミュニティへの広報

(成田支所旅具検疫第1課)

動物検疫所では我が国への家畜の伝染病の侵入を防止するため、海外から入国者が違法に畜産物を持ち込むことがないように、入国者の荷物に対する動植物検疫探知犬の探知活動、家畜防疫官による口頭質問等のいわゆる“水際対策”のほか、日本へ畜産物を持ち込ませない取組として、広報による“事前対策”にも力を入れています。こうした中、携帯品検査における警告書交付者の属性を見てみると在留外国人による持込みが多く、いかに彼らへ広報できるかが課題となっています。

そのため成田支所において、在留外国人への広報の一環として、①外国食材店（以下「食材店」

という。)に対する広報活動と、②食材店周辺在住の在留外国人コミュニティに対する広報活動を実施したので紹介いたします。

まず、①食材店に対する広報活動では、千葉県内保健所の食品衛生業務の主務課である千葉県健康福祉部衛生指導課に依頼し、管内の保健所へ広報物の設置を依頼しました。食材店の多くは食品衛生の届出のために保健所を訪れるため、保健所に広報物を設置することで、食材店を開設する者に対し、効果的・効率的に広報できると期待しています。

次に、②食材店周辺在住の在留外国人コミュニティに対する広報活動では、千葉県内の食材店を訪問し、動物検疫について説明した上で、広報物の設置を依頼しました。協力食材店を探す上では、千葉県健康福祉部衛生指導課から入手した「食品等事業者の営業許可・届出情報」（公表データ）を参考にしました。食材店からの聴取でも現地の食材を求めて在留外国人が訪れるため、食材店における広報物の設置は周辺の在留外国人コミュニティに対する効果的な広報である、との御意見を頂戴しました。こうして現在3店舗の協力を得られ、一部ではすでに広報物を設置していただいています（写真参照）。店舗とも相談し、レジの机、畜産物が販売されている冷蔵庫等に設置することで、より多くの来客の目に留まることを期待しています。引き続き、協力店舗数は拡大していく予定です。

また、広報において“効果検証”は、広報物の内容等をブラッシュアップしていく上でとても重要と考えています。そこで今回の広報について二次元コードを利用した効果測定ができないか検討しています。

最後に、「水際検疫の強化について（中間とりまとめ）：令和7年6月4日付け水際検疫の強化に向けた検討会公表」によると、①在留外国人等に対する効果的な動植物検疫制度の周知徹底及び②輸入禁止品に係る国内対応の取締強化が必要とされているところです。現在、この広報は当課で試行的に実施しているところですが、今後は支所全体でこの事前対応型の広報に取り組み、植物防疫所、保健所等の関係機関と連携して食材店の協力店舗数を増やしてまいります。



＜レジ前に設置した広報物＞



＜冷蔵庫の上に設置した広報物＞



「水際検疫の強化について（中間とりまとめ）：令和7年6月4日付け水際検疫の強化に向けた検討会公表」

・大阪・関西万博 大阪ヘルスケアパビリオンのイベントに参加しました

(関西空港支所)

令和7年4月13日、大阪・関西万博が開幕しました。158か国・地域、7つの国際機関が参加し、「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに多彩な展示、イベントが行われています。開催前は様々な意見がありましたが、ふたを開けてみれば連日大盛況で、当所の職員も通期パスを入手し、週休、夜勤明けのみならず日勤勤務後にも会場入りするような熱心なファンもいます。(関西空港から会場のある夢洲まで、電車で1時間半ほどです。)

開催地である大阪府市が協賛企業等と出展する「大阪ヘルスケアパビリオン」では、「REBORN」をテーマにさまざまな展示、イベントが行われています。今回、5月26、27日に「人とペットとの共生社会」をコンセプトにしたイベントが開催されました。当所では26日に、大阪税関(麻薬探知犬)と共に「関西国際空港で日本の水際を守る犬たち」として、検疫探知犬の百合号とガヨ号を連れて参加しました。



イベント参加の打診を受けた令和7年1月から合同参加の大阪税関と共に工事中の現地での下見など各種調整を行いながら準備を進めていましたが、後1か月を切った4月下旬から準備作業は一気に加速しました。

通常、広報で検疫探知犬のデモンストレーション(デモ)を行う場合は、動物検疫に関する理解醸成を目的にするのですが、今回は万博イベントのルールに合わせた形で実施する必要がありました。例えば所属部署の宣伝は不可のため、動物検疫所公式キャラクター「クンくん」(着ぐるみ)のコートに書かれている「農林水産省」の文

字を隠すなど普段とは違った配慮が必要でした。主催者((公社)大阪パビリオン)、事業運営者、(公社)2025年日本国際博覧会協会、大阪税関など各所との綿密な調整が必要で、大規模イベントならではの大変さがありました。また、保安上や万博理念上の理由により会場内に持ち込めない物、持込みに許可申請が必要なもの(犬も申請が必要)などがあり、持ち込むものの選定や手続にも気を使いました。

そうしてやっと迎えたイベント本番の天気は、前日の大雨からなんとか持ち直し、涼しい風が吹く最高のイベント日和でした。



基本進行は大阪税関総務部税関広報広聴室が担当し、麻薬探知犬・検疫探知犬に関するクイズ、当所職員の進行による検疫探知犬の紹介とデモ、麻薬探知犬の紹介とデモ、最後にカスタム君、クンくんと探知犬たちとの記念撮影の時間を設けて、約1時間のプログラムは無事に終了しました。会場の座席(150人分)は満席、立見や大屋根リング上からの観覧者もいっしょに大盛況でした。

検疫探知犬2頭とクンくんを同時に出す広報イベントへの参加は初の試みでしたが、神戸支所大阪出張所からの協力も得て無事に終了することができました。万博に限らず多くの皆様に私たちの仕事を紹介できる機会があれば是非、参加していきたいと思っています。



・東京都芝浦食肉衛生検査所見学

(羽田空港支所)

羽田空港支所では、新規採用者向けの研修の一環として、東京都芝浦食肉衛生検査所（以下「芝浦食肉衛生検査所」という。）への業務見学を実施しています。

芝浦食肉衛生検査所は、芝浦と畜場が併設される東京都中央卸売市場の敷地の一角にあり、品川駅からほど近い、大都会の高層ビル群の中に位置しています。当施設には長い歴史があり、昭和30年頃は戦後復興に伴う食肉需要の高まりに伴い品川駅から専用の貨物列車で家畜が搬入されていたとのことです。

芝浦食肉衛生検査所では、年間約30万頭のと畜検査が行われており、畜種別の割合は牛が約30%（うち大部分が肉用種）、豚が約70%です。都内の大消費地に隣接している土地柄から、全国の名だたるブランド牛が集結しており、肉質等級の格付けが終了した枝肉は食肉市場でセリにかけられ、精肉店などへ輸送されています。今回は実際にセリの様子を見学する機会もいただきました。

芝浦と畜場では、大動物（牛）及び小動物（豚）の各処理ラインについて、家畜の搬入からと畜解体し搬出するまでの一連の流れを見学しました。この際、豚熱（CSF）対策の一環として、牛から豚の順で施設見学を実施するルールが設けられていました。

また、ブランド牛肉等の食肉輸出事業に対応するため、芝浦食肉衛生検査所の職員は食肉輸出事務として書類審査や検品、衛生検査証明書の発行といった業務も実施していました。現在、芝浦と畜場はマカオ、タイ、ミャンマー及びベトナムの4か国で輸出適合施設としての認定を取得しています。このうちタイやベトナム向けの食肉輸出実績が多数を占めている状況とのことでした。

今回はと畜検査員やと畜検査員の補助業務をする獣医衛生補佐員の業務を間近で見学できる貴重な機会でした。1頭当たりの検査時間が限られているため、各と畜検査員は個体ごとの検査結果を迅速にデータ化することが必要であり、タッチパネル式の「食肉衛生検査システム」が導入さ

れていました。当該システムに登録した情報は、即座にデータベースサーバに書き込まれるため、リアルタイムでの情報共有が可能です。このため、当該システムは重大疾病の摘発等の急を要する情報伝達手段としても有効であるほか、蓄積したデータは生産者へのフィードバックにも活用されているとのことです。全ての工程において、食肉は衛生的に取り扱われていました。

精密検査室の見学では、当所の業務で使用していない動物用医薬品や農薬といった残留有害物質の分析機器を多数見せて頂きました。日々の業務で得られた成果は調査研究として所内への情報共有だけでなく、学会誌への報告もされているとのことです。

羽田空港支所と芝浦食肉衛生検査所には、家畜の伝染病に係る検査を通じて公衆衛生の向上を図っているという共通点があることから、相互の業務内容をより深く理解するため定期的に互いの施設見学を実施しています。毎年、見学を受け入れて頂いている芝浦食肉衛生検査所の皆様に、この場を借りてあらためて感謝申し上げます。

・新たに配備された移動式レンダリング装置について

(企画管理部危機管理課)

令和7年3月、全国で5台目となる移動式レンダリング装置が中部空港支所に配備されました。本装置はこれまで配備されている装置と仕様が異なるため、装置の概要を紹介します。

【装置の概要】

本装置は、株式会社JETが開発した急速発酵乾燥資源化装置の加熱処理能力をレンダリングに活用したもので、畜体投入時に畜体を物理的に破碎しないことが特徴です。

本装置は、投入ユニット、殺菌ユニット、加熱ユニット、オイルタンクユニット、脱臭・冷却ユニット及び分注ユニットの6ユニットから構成され（図1）、稼働時には38m×24m、組立時には最大約53m×52m程度の作業スペースが必要です。

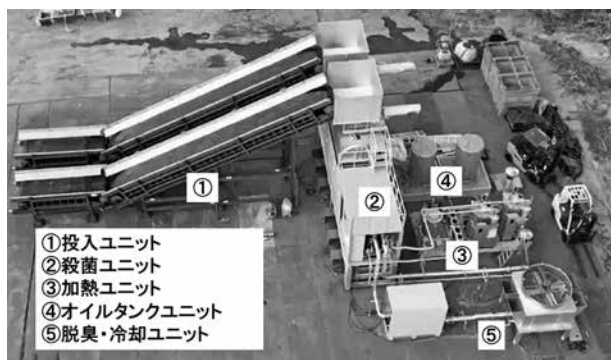


図1 装置の全景

【畜体の処理方法】

畜体は投入ユニット（図2）のベルトコンベヤにより殺菌ユニットに投入された後、殺菌ユニット（図3）内で90℃以上に加熱されながら攪拌されます。90℃以上に加熱した後、殺菌ユニットから空気を抜いて減圧すると畜体は内部から崩壊します。

また、加熱中に畜体から生じる水分を脱臭・冷却ユニット（図4）で脱臭処理後、水蒸気として大気中に放出することで減量化・減容化します。加熱処理後の生成物には一部の骨が残るため、分注ユニット（図5）のスクリュ式破砕機で物理的に破砕した後、スラリーポンプを用いて排出します。



図2 投入ユニット

図3 殺菌ユニット



図4 脱臭・冷却ユニット（左）

図5 分注ユニット（右）

【本装置と既存装置の特徴】

本装置は畜体投入時にベルトコンベヤを使用するため、既存装置（南国興産株式会社製造）と比較して大きな設置面積と多くの輸送車両を必要とします。一方、殺菌ユニットへの投入時に畜体を物理的に破碎しないため、周辺に非加熱の肉片等が飛散するおそれは既存装置より低くなっています。（既存装置は投入時に畜体を破碎するため飛散防止措置を講じます。）畜体の処理方法は、既存装置は連続式を採用し、本装置はバッチ式を採用しています。連続式は、畜体を連続的に投入し、都度生成物が排出される方式です。畜体の投入と生成物の排出作業が常に行われるため、各工程の作業量を平準化しやすい利点がある一方で、常に畜体の投入量と生成物の排出量を監視する必要があります。バッチ式は、処理1回当たりの畜体を装置に投入した後、まとめて加熱殺菌処理を行う方式で、作業員の入替え時などマンパワーに空白が生じても比較的柔軟に対応できます。一方、畜体の投入が完了しない限り加熱工程に進めず、排出が完了しない限り次の畜体を投入できないため、タイムロスが発生する可能性があります。なお、両装置の単位時間当たりの処理能力は同等です。

装置の仕様等については今後も情報提供を行ってまいりますので、使用を検討する都道府県におかれましては、これら装置の特性の把握に努めていただきますようお願いいたします。

・大型防疫資材の貸出事例と新たな装置の配備（野跡検疫場）

（中部空港支所名古屋出張所）

名古屋市港区に所在する野跡検疫場は近年、輸出入動物の係留検査の実績はなく、現在は防疫資材の保管場所として活用されています。配備されている大型防疫資材の疾病発生時や防疫演習等における貸付けは、都道府県が農林水産省（動物衛生課）に貸付けに関する連絡を行い、動物衛生課と動物検疫所（危機管理課）で貸付けの協議を行います。貸付けが決定され、都道府県から危機管理課に貸付申請が提出された後、危機管理課からの指示により野跡検疫場からの搬出立会を行

います。

令和6年11月、高病原性鳥インフルエンザの防疫措置のため岐阜県へ組立型移動式焼却炉一式の貸出しを行いました。野跡検疫場からの搬出時はトラック2台、ラフタークレーン1台及びフォークリフト1台を用いて、約2時間で作業が終了しました。装置の稼働場所での組立て後、焼却処理が9日間行われました。作業完了後、装置の洗浄・消毒、解体ののち、翌月に野跡検疫場へ返却されました。



【移動式焼却炉搬出時の輸送トラックへの積載状況】

令和7年3月には移動式レンジリング装置が、新規配備されました。この装置は従来のレンジリング装置と同じ処理能力を有しますが、従来の装置とは処理方式が異なる（バッチ式）ため、より大型の装置となっています。野跡検疫場内の搬入には延べ3日を要しました。そのため、貸出しの際に搬出にかかる時間も搬入時と同程度と想定されます。また、搬入時の輸送車両の延べ数は、トレーラー3台、トラック9台（うちユニック車1台）及びラフタークレーン3台（殺菌ユニットの積卸しには2台のラフタークレーンが同時に必要）でした。今後、貸付要請があれば迅速に対



【殺菌ユニットのクレーン2台による吊上げ状況】

応できるように準備を進めていきたいと思えます。

・八戸港における輸出入畜産物のリモート検査の実施について

（北海道・東北支所函館空港出張所）

函館空港出張所は、函館空港、青森空港の国際線旅具検査、函館港、青森港（指定外港）のクルーズ船対応、八戸港の畜産物検査を実施しており、特に八戸港は函館駅から片道約3時間を要し終日人員を一人割くことから、検査可能な曜日、時間を指定していました。今後、地方空港の国際線、国際クルーズ船の増便等により、人員の捻出が困難になることが予想されることから、八戸港における輸出入畜産物の現物検査にリモート検査を導入しました。

令和3年6月、リモート検査の試行に先立ち、八戸港における主要な通関代理店3社への説明とアンケート調査を実施し、リモート検査を希望する旨の意向を確認しました。また、輸出入畜産物の指定検査場所（八戸港コンテナヤード）担当者に対して、リモート検査の試行を行うことに特段の支障はない旨を確認しました。

第1段階として、八戸港コンテナヤードに出張した当所職員の個人所有端末を用い、skypeを利用したリモート検査により通信状況を確認、第2段階として通関代理店の業務用端末を用い、Zoomを利用したリモート検査を実施しました。なお、第2段階において、不具合等が起きる可能性を考慮し、当所職員1名が八戸港へ出張しリモート検査に立ち会いました。

第1及び第2段階において、映像の画質及び音質は非常にクリアで、データ遅延等もなく円滑に現物検査を実施することができたため、本格的なリモート検査を開始しました。なお、検査開始に際しては、通関代理店が業務用端末を使用するため通信費用が発生する可能性について申請者にあらかじめ説明し了承を得ました。令和5年12月、GSS環境への移行に伴い、Teamsを利用したリモート検査へ移行し、リモート検査対象物を拡大し現在まで継続的に実施しているところです。

リモート検査の導入により、人員の確保や出張

コスト削減、出張対応のため曜日を限定していた検査実施日の拡充等を実現することができました。リモート検査は、人員確保及びコスト削減に有効であり、柔軟に検査スケジュールを組めることから、申請者から評価を頂きました。当所で申請される畜産物の殆どが八戸港コンテナヤードで検査するものであり、屋外での検査であるため通信が安定していることから、リモート検査の実施に当たっては、これまで特段の問題は生じていません。引き続きリモート検査を継続し、今後は、倉庫等の屋内での検査も行うことができないか検討することとしています。

◎所内情報

・令和7年度動物検疫所業績発表会の概要

(精密検査部病理・理化学検査課)

令和7年6月27日～28日、動物検疫所本所大会議室において、令和7年度業績発表会を開催しました。本発表会は動物検疫の業務、調査研究等における業績について発表及び討議を行い、検査業務の改善・向上に資することを目的とし、毎年1回開催しています。本年度は第一部門「検査業務の課題や改善事例の報告」として13演題、第二部門「検査診断事例や検査の技術改善のための調査研究報告」として10演題の発表があり、このほかに特別演題として関西空港で行われた口頭質問スキルアップ研修や外部研修の受講報告について3演題の発表が行われました。昨年に引き続き、対面及びWEB聴講を実施し、多くの方に御参加いただきました。

例年、動物検疫に関する最新の知見を得るため、特別講演を開催しており、今年度は農研機構動物衛生研究部門人獣共通感染症研究領域新興ウイルスグループの内田裕子先生をお招きし、「近年の鳥インフルエンザの特徴」について御講演いただきました。鳥インフルエンザについて、これまでのウイルスの変遷や今後懸念される影響など大変興味深い内容で、会場からは多くの質問が挙がりました。

また、業績発表会後に実施したアンケートでは、特別演題や特別講演等について、勉強になった、今後の業務に生かしたいといった御意見を多

くいただき、これからも皆様に役立つ話題を提供したいと思います。

<受賞演題>

○第一部門優秀演題

- ・外国食材店を中心とした外国人コミュニティへの広報の検討（成田支所旅具検疫第1課）
- ・水産動物の管理飼育におけるリモート検査について（中部空港支所検疫課）
- ・輸入初生ひなの輸送事故防止策の検討（羽田空港支所検疫第1課）

○第二部門優秀演題

- ・酵素活性測定による肉製品の加熱確認法の検討（精密検査部病理・理化学検査課）
- ・鼻疽の抗体検査体制整備（精密検査部微生物検査課）

○第66回全国家畜保健衛生業績発表会特別演題

- ・新たに配備された移動式レンダリング装置について（企画管理部危機管理課）
- ・野跡検疫場に配備された大型防疫資材と貸出事例（中部空港支所名古屋出張所）

※上記2演題を1演題にまとめて発表

- ・米国産繁殖用豚における豚白血病（Bリンパ球性白血病）について（成田支所動物検疫第1課）



・新たにデビューした動植物検疫探知犬の紹介

(検疫部管理指導課)

今年4月、動物検疫所で育成訓練をした動植物検疫探知犬が新たに3頭活動を開始しましたの

で、御紹介します。

<トット号>

広島県の動物愛護センター出身の雑種の女の子です。センターのスタッフの方々の推しの子でもあったトット号は、責任感が強く、一生懸命に訓練に取り組んできました。訓練期間中、同じ犬舎で生活をしていた他の犬とのまとめ役も頑張っていました。時々くたびれてしまうと甘えた表情でトレーナーにすり寄ってくる一面もありました。トット号は、活動を開始して以降、たくさんの旅客がいる状況が少し苦手なようですが、探知対象物のおいを嗅ぎ取ると、必死にその荷物を嗅ぎに行こうとしています。このようにトット号は、とても頑張り屋さんですが、頑張りすぎてくたびれてしまわないように、ペアを組むハンドラーは日々いろいろな調整をしながら、少しずつ前に進んでいます。



<ルガット号>

もうすぐ1歳になる黒のラブラドル・レトリバーの男の子です。御縁があり、生後3か月齢のときに日本大学生物資源科学部伴侶動物学研究室（以下「日本大学」という。）から当所が譲り受け、動植物検疫探知犬になるための育成訓練を受け、晴れてデビューしました。とてもマイペースでおっとりした性格ゆえ、何かに動揺することもなく、すごく興奮して手が付けられなくなるようなこともなく、訓練ものんびりペースながらも、着々とこなしていく子でした。最初のうちは、探知への集中力の持続に課題がありましたが、身体が成長していくにつれて心も成長し、今ではハンドラーのリードに沿ってしっかり探知をしてくれています。今後がとても楽しみです。



<ガヨ号>

ガヨ号はルガット号のお母さんで、ルガット号と同じく日本大学からやってきました。1歳の黒のラブラドル・レトリバーです。ルガット号は6頭兄弟で、当初、この兄弟の中から候補を選定する予定でした。そして、いざ選定のためにトレーナーが日本大学に行くと、異彩を放つ存在が……。それが、ガヨ号でした。トレーナーが惚れ惚れしていると、日本大学の先生から「この子もどうぞ。」と言っていただき、即決しました。この一目惚れの感覚は間違っていなかったようで、ガヨ号を訓練してみると、とても手応えのある反応を示してくれました。御褒美に与えるおやつを食べっぷりが豪快で、よくトレーナーの指まで齧られて痛い思いをしたものです。ペアを組むハンドラーと一緒に悩みながらも日々奮闘しています。



トット号、ルガット号、ガヨ号の応援、よろしくをお願いします！

・ジャグ号の引退と長崎の毎日 ～働く犬から家族へ、元検疫探知犬の新しい日々～

(門司支所長崎空港出張所 小谷 啓)

わが家にかつて動植物検疫探知犬（以下「検疫探知犬」という。）として活躍していたアメリカ生まれのビーグル犬、ジャグ号がやってきて、半年が経ちました。

私とジャグ号の出会いは、ハンドラー研修を受けるために訪問したアメリカの検疫探知犬訓練学校でした。初めて会ったとき、「なんて愛嬌のある、かわいらしい犬なんだろう」と、心を奪われたのを今でもはっきりと覚えています。

ジャグ号は、平成 28 年に検疫探知犬として来日し、関西国際空港を皮切りに、成田国際空港、羽田国際空港と勤務地を移しながら、数多くの動植物探知業務に従事してきました。私とジャグ号はこのうち 2 つの空港で約 4 年間バディを組んで業務にあたりました。体は小柄ながら、海外から持ち込まれた肉製品や果物などの輸入禁止品を嗅ぎ分け、動物の病気や植物の害虫の侵入を防ぎ、日本の畜産・農業を守ってきた、まさに“緑の下の方持ち”です。

ジャグ号は、空港における検疫探知業務だけではなく、空港で開催されたイベントや小学校への訪問などに参加し、動植物検疫の大切さを伝える広報犬としても活躍してくれました。当時、子ども達に囲まれて嬉しそうにしていた姿は、今でも目に焼き付いています。

令和 6 年 12 月、推定 11 歳を超えたジャグ号は、検疫探知犬を引退しました。引退後は私が引き取ることになり、家族の一員となりました。わが家の子ども達は、私の仕事を認識しており、以前から検疫探知犬が出演するテレビ番組を録画して見るほどのファンであったため、ジャグ号を「小さなヒーロー」として大切に迎え入れてくれました。

現在、私が住んでいる長崎県大村市は海や山に囲まれた自然豊かな土地です。住居近くにある散歩コースには海岸と隣接した大きな公園があり、芝生の上でゆったりと遊ばせることができる環境が整っており、時には夕日をバックに海岸でも遊ばせています。休日にはドッグカフェやハウス

テンボスなど、犬が同行できる施設にも足を延ばすこともあり、充実した時間を過ごしています。このように、のんびりとした時間の中で、穏やかな毎日を過ごしています。



長崎県大村湾に沈む夕日とジャグ号

散歩中に出会う犬達ともすっかり顔なじみになり、すれ違うたびにしっぽを振って挨拶する姿から、地域の一員として溶け込んでいるように感じます。公園では、隙あらば芝生の上で仰向けになりゴロゴロと転がって草まみれになってしまう姿に、思わず笑ってしまうこともあります。



花冠を被るジャグ号 芝生で遊ぶジャグ号

元々私にとって長崎は縁のない土地でしたが、気候も穏やかで犬を飼育するには良い環境がそろっており、食べ物もおいしく、ジャグ号と過ごす今がとても気に入っています。

これからもジャグ号が元気で長生きできるよう、健康に注意しながら、日々を過ごしていきたいと思います。

最後に、ジャグ号が検疫探知犬としての役割を終え、新しい生活を迎えることができたのは、今までジャグ号に関わってくださった方々の支えがあったからこそだと思っています。関わってくださった全ての皆さまに、心より感謝申し上げます。

◎畜産物・動物の輸出入検疫数量実績（令和 7 年 5 月、6 月）

●輸入畜産物（前年同月比）

5 月分全体の輸入量は前年同月比 100.1%と横ばい、6 月分全体の輸入量は前年同月比 104.5%とやや増加しました。

●輸出畜産物（前年同月比）

5 月分全体の輸出量は前年同月比 94.4%とやや減少し、6 月分全体の輸出量は前年同月比 103.2%とやや増加しました。

（単位：KG、アンプル、個）

品目名			輸入		輸出	
			5 月	6 月	5 月	6 月
骨類	骨		1,347,216	865,497	2,650	4,000
	碎骨		213,364	1,947,718	—	—
	蹄角		10,440	4,047	—	—
	骨髄		71,642	126,710	—	—
	蹄角粉		32,000	50,000	—	—
	その他の骨		—	—	—	—
	計		1,674,662	2,993,973	2,650	4,000
肉類	牛肉	冷蔵	19,962,955	17,822,275	393,497	415,573
		冷凍	37,340,166	31,378,751	465,587	474,608
		その他	9,397	12,652	21	1
		加熱処理	40,117	55,506	—	—
	豚肉	冷蔵	35,259,315	31,210,623	3,048	2,755
		冷凍	77,872,761	65,934,350	115,379	142,277
		その他	20,800	1,633	—	—
		加熱処理	789,820	723,189	—	—
	めん羊肉		2,557,695	2,327,138	—	—
	山羊肉		122,303	83,515	—	—
	鹿肉		121	—	14	—
	その他の偶蹄類肉		—	—	—	—
	加熱処理その他の偶蹄類肉		644	—	—	—
	ハム		254,403	203,710	—	—
	加熱処理ハム		28,947	39,543	—	—
	ソーセージ		1,367,751	1,172,918	629	7
	加熱処理ソーセージ		580,607	680,646	—	—
	ベーコン		163,532	118,914	—	—
	加熱処理ベーコン		209	1,880	—	—
	馬肉		459,601	376,183	—	—
	うさぎ肉		6,893	4,087	—	—
	犬肉		—	—	—	—
	家きん肉		53,213,994	52,323,002	456,921	381,466
	家きん加熱処理肉		39,296,480	39,653,944	—	—
	非加熱 その他の肉	牛	1,146,842	760,604	—	42
		豚	207,186	168,870	1,150	360
		家きん	40,435	69,393	32,618	45,682
		その他	86,034	25,441	16,925	27,295
	加熱処理 その他の肉	牛	107,465	125,894	—	—
		豚	2,590,759	2,966,034	—	—
		家きん	3,631,418	3,497,972	—	—
		その他	324,331	499,818	—	—
	計		277,482,981	252,238,487	1,485,790	1,490,065
臓器類	牛臓器		193,816	64,646	7	51
	豚臓器		84,440	43,427	320	400
	その他の偶蹄類臓器		18,675	24,437	—	—
	加熱処理牛の臓器		—	—	—	—
	加熱処理豚の臓器		—	—	—	—

品目名		輸入		輸出	
		5月	6月	5月	6月
臓器類	加熱処理その他の偶蹄類臓器	—	—	—	—
	偶蹄類以外の臓器	33,860	59,228	929	420
	消化管等	2,841,062	3,138,241	1,985	1,805
	加熱処理消化管等	—	—	—	—
	ケーシング	437,825	398,973	—	17,941
	脂肪	4,526,244	3,004,668	501	—
	非加熱その他の臓器	2,423	3,595	—	—
	加熱処理その他の臓器	1	—	—	—
	加熱処理家きん臓器	253,467	230,932	—	—
	加熱処理その他の家きん臓器	21,600	11,837	—	—
	計	8,413,412	6,979,985	3,741	20,616
卵類	殻付卵	694,556	567,320	1,711,133	1,732,893
	液卵	362,991	585,062	717	3,960
	その他の卵	—	—	10,205	22,944
	計	1,057,547	1,152,382	1,722,054	1,759,796
皮類	牛皮	2,455,551	2,295,720	1,240,058	1,093,789
	豚皮	68,332	31,134	4,629,484	4,333,699
	めん羊皮	—	—	—	—
	山羊皮	—	—	—	—
	鹿皮	14,720	24,331	—	—
	その他の偶蹄類の皮	—	—	—	—
	馬皮	39,421	95,393	—	—
	うさぎ皮	53,910	53,760	—	—
	犬皮	—	—	—	—
	その他の皮	—	—	—	—
	計	2,631,934	2,500,339	5,869,542	5,427,488
毛類	牛毛	—	—	—	—
	豚毛	100	3,815	—	—
	羊毛	—	—	—	—
	山羊毛	3,463	4,895	—	—
	鹿毛	—	—	—	—
	その他の偶蹄類の毛	75	75	—	—
	馬毛	8,088	1,930	—	—
	うさぎ毛	2,240	—	—	—
	羽毛	131,873	118,280	39,572	15,594
	犬毛	—	—	—	—
	その他の毛	—	—	1,070	2,546
	計	145,840	128,994	40,641	18,140
乳製品類	チーズ	23,980,684	23,953,504	9,694	244
	バター	781,301	1,013,911	26,007	24,980
	偶蹄類動物の飼料用乳製品	5,890,169	5,151,271	—	—
	その他の乳製品	4,802,682	5,707,207	231,343	221,448
	計	35,454,835	35,825,893	267,044	246,672
ミール類	血粉	393,092	98,172	—	—
	肉粉	30,003	19,218	—	—
	肉骨粉	200	—	—	—
	皮粉・羽毛粉	—	—	—	—
	計	423,295	117,390	0	0
その他	精液（アンブル）	58,367	78,984	141	9
	受精卵（個）	118	122	—	—
	ふん・尿	3	—	—	—
	計	3	—	141	9
わら類	穀物のわら	18,561,770	22,620,090	—	—
	飼料用の乾草	—	—	—	—
	その他	134,490	104,300	—	—
	計	18,696,260	22,724,390	0	0
総計		345,980,766	324,661,833	9,391,463	8,966,778

※ 解放重量ベースの速報値

(単位：頭、羽、個、群)

動物名	用途	輸入		輸出	
		5月	6月	5月	6月
牛	乳用繁殖用	—	—	—	—
	肉用繁殖用	—	—	—	—
	肥育用	—	—	—	—
	と畜場直行用	—	—	—	—
	その他	—	—	—	—
豚	繁殖用	63	52	—	—
	その他	—	—	—	—
めん羊		—	—	—	—
山羊		—	—	—	—
その他の偶蹄類		—	—	—	—
馬	繁殖用	—	1	—	5
	乗用	13	5	—	—
	競走用	35	4	—	—
	肥育用	92	428	—	—
	と畜場直行用	—	—	—	—
	その他	—	—	—	—
その他の馬科		—	—	—	—
うさぎ		125	33	9	14
初生ひな（鶏）		39,327	29,737	—	—
初生ひな（その他）		—	—	—	—
種卵（個）		—	—	—	—
蜜蜂（群）		—	—	—	—
指定検疫物以外の動物				7,971	8,017
犬		738	741	615	718
猫		369	424	328	349
あらいぐま		—	—	—	—
きつね		—	—	—	—
スカンク		—	—	—	—
サル		—	—		

※ 解放頭羽数ベースの速報値

・お詫びと訂正のお知らせ

動検時報 Vol.58-3 2025.6 号の下記につきまして、内容に一部誤りがございました。深くお詫び申し上げますとともに、次のとおり訂正させていただきます。

・ P.15-16「動物検疫所の組織構成」沖縄支所調整
指導官名及び検疫課長名

【誤】

調整指導官 青野 幹広
検疫課長 鈴木 章則

【正】

調整指導官 鈴木 章則
検疫課長 青野 幹広



動物検疫所のホームページに、クンくんのページができました。

左の QR コードからご覧いただけます！

<https://www.maff.go.jp/aqs/topix/kun-kun.html>

～クンくんのペーパークラフトもダウンロードできます！～

◎動検通信（門司支所）

本年 10 月、当支所 5 つ目となる「熊本空港出張所」が阿蘇くまもと空港に（再）開設されます。同出張所の沿革を辿れば、昭和 55 年 4 月に地方空港国際化の波に合わせ設置されたものの、平成 7 年 3 月には国際線の利用者減少、航空会社の撤退を受け一旦廃止となりました。その後は、国際便の到着があるごとの出張対応でしたが、令和 5 年 3 月の新ターミナルの開設、近隣には国際的な大規模半導体製造工場、さらには新型コロナ禍後の国際線の復・増便、訪日旅客数は息を吹き返すなか、廃止から 30 年の時を経て、職員が常駐する出張所として「復活」することになりました。

「復活のシンボル」と言えば、熊本城。先日、復活を遂げた天守閣を訪問する機会を得ました。同城は、築城の名手と言われる加藤清正によりますが、城自体の作りはもとより城郭の石垣は秀逸であり難攻不落の名城として有名です。その天守閣は、西南戦争の折に一度焼失しましたが、肥後、熊本の人々の並々ならぬ熱情により再建、昭和 35 年に復元されたものです。その城を平成 28 年 4 月二度にわたり震度 7 の地震が襲いました。天守の倒壊は免れたものの、屋根瓦は落ち、石垣も多数崩壊したなか、櫓の倒壊を防いだ「奇跡の一本石垣」は今も記憶に残っています。

清正公と同時代を生きた武将の言葉に「人は石垣、人は城」とあります。また、熊本の友人曰く「熊本のひとは、皆が大切に守り継いできた城を中心にものを考える」と。戦や災害、疫病など幾度も困難に遭遇しつつも、その度ごとに倒れても立ち上がってきた人びと。その根幹には、皆で守り継いできた社会の安寧、繁栄を願う「復活」への熱き志があったと思われます。

国内の有数の大畜産地帯を擁する九州の動物検疫をあずかる当支所としても、志高き職員との強固な「石垣」を幾重にも築き、水際、地域、農場の三位一体の家畜疾病防除により、畜産の「城」を守る取組をさらに幅広く展開していきたいと考えております。熊本城の完全復旧は 27 年後とのことですが、あらためて令和 7 年 10 月に水際の砦として「復活」を遂げる熊本空港出張所をくれぐれもよろしく願いいたします。

最新のトピックスは
こちらへ➡

動物検疫所のホームページ <https://www.maff.go.jp/aqs/>
農林水産省のホームページ <https://www.maff.go.jp/>
WOAH のホームページ <https://www.woah.org/en/home/>

動検時報はこちらにも掲載しています。



編集・発行 農林水産省
動物検疫所
横浜市磯子区原町 11 - 1
(045) - 751 - 5921 (代表)